

第6回東オホーツク定住自立圏共生ビジョン懇談会議事録

1. 日 時 令和7年11月21日（金）16：30～17：40
2. 会 場 エコセンター2000 2階 大会議室
3. 出席者 吉田委員（座長）、永倉委員（副座長）、今城委員、白濱委員、川畑委員、小山委員、佐々木委員（網走漁業協同組合）、板垣委員、成田委員（斜里第一漁業協同組合）、山田委員、二宮委員、中山委員、明神委員、井南委員、目黒委員、安田委員代理（小清水町農業協同組合）

◆16：30開会

（佐々木課長）

ただいまから、第6回東オホーツク定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催いたします。議事に入る前に、新たに委員になられた方を紹介いたします。網走市社会福祉協議会事務局長、永倉一之委員でございます。小清水町社会福祉協議会会長、今城京子委員でございます。網走市社会教育委員の会議議長、白濱敏委員でございます。清里町商工会事務局長、小山博文委員でございます。女満別農業協同組合参事、山田大委員でございます。なお、本日欠席されておりますが、JA北海道厚生連網走厚生病院事務局長、佐々木亮委員も新たに委員となっております。委嘱状はお手元に配付しておりますのでご確認願います。ここで、開会にあたり、吉田座長よりご挨拶を申し上げます。

（吉田座長）

座長の吉田でございます。本日は、大変お忙しい中、東オホーツク定住自立圏共生ビジョン懇談会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。東オホーツク定住自立圏は、これまでさまざまな分野において連携し取り組んできた1市4町が、その連携をより強固なものとし、今度迎えるさらなる人口減少・少子高齢化に対応するため、令和4年3月に網走市と各町で協定を締結したことにより形成されました。この共生ビジョンは、圏域の将来像や、各市町村が連携・協力する具体的な取り組みを定めるため、懇談会での意見交換などを経て、同年12月に策定されたところでございます。共生ビジョンをよりよいものにしていくため、委員の皆様には、幅広い分野・視点から、忌憚のないご意見を頂戴できればと考えておりますので、今後ともなお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。

それでは、議事に入らせていただきたいと思います。

お手元の資料にありますように、本日の議事としましては、東オホーツク定住自立圏共生ビジョンにかかわる成果指標の達成状況について、ということが第1項目となっておりますので、これに関しては事務局の方からご説明いただきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

（法師人係長）

それでは、共生ビジョンにかかる成果指標の達成状況についてご説明させていただきます。

お手元のA4横の資料、ちょっと厚手のものでございますが、東オホーツク定住自立圏共生ビジョン成果指標の達成状況についてというものをご覧ください。

今回初めて本懇談会に出席される委員もおいでですので、進捗状況の説明に先立ちまし

て、定住自立圏構想や共生ビジョン、また本懇談会を開催する趣旨などについて改めてご説明申し上げます。

定住自立圏構想は、総務省が推進している施策でございます。人口減少、少子高齢化が進行する中、地方の生活基盤が衰退し、将来的に単独の市町村だけでは全ての行政サービスを提供できなくなることが懸念されるため、住民の生活環境が密接に関係している地域を一つの圏域として捉えまして、定住に必要な生活機能である医療、福祉、教育、公共交通などを圏域全体で確保するとともに、自立のための経済基盤や地域の誇りを醸成し、魅力あふれる圏域を形成していくことを目的とするものでございます。

メリットといたしましては、国が推進する各種事業の採択にあたりまして、事業にもよりますが、優先的に採択されるなどの優遇措置、また、各分野での事業実施に係るハードルが下がることなどがございます。

網走市と斜里町、清里町、小清水町、大空町は、令和4年3月に定住自立圏形成協定を締結しまして、同年12月に東オホーツク定住自立圏共生ビジョンを策定いたしました。

この定住自立圏共生ビジョンは、協定により形成された圏域全体にかかる将来像や、概ね5年間にわたる各市町村の具体的取り組みを記載する事業計画として位置づけられるものでございます。

共生ビジョンの策定や所要の変更にあたっては、地域の関係者などからなる懇談会での検討を経た上で、当該市町村にて協議をすることとされております。

それでは引き続き、共生ビジョンにかかる成果指標の達成状況について、令和6年度の状況を説明申し上げます。お手元の資料をご覧ください。

初めに1ページ、「救急医療体制の対応日数」です。

救急医療体制の対応日数は、年365日で目標を達成することができました。

続きまして2ページ目、「休日救急体制の対応日数」も、年72日となっております、こちらも目標を達成しております。

次に3ページ、「産科医療機関数」です。

令和6年度の実施は3施設で、目標値を維持しております。

次の4ページ、「小児科医療機関数」も6施設で、こちらも目標値を維持しております。

次に5ページ、「女満別空港利用者数」です。

令和6年度の実施は80万4,000人で、前年度から増加しており、新型コロナウイルス感染症の影響による観光需要の減退から回復基調にあります。今後も空港民営化を契機とした、様々な利用促進策などを通して、インバウンドの誘客やプロモーション活動に圏域として継続的に取り組んでまいります。

次に6ページ、「ICTを活用した広域講座開催回数」です。

申し訳ありませんが修正がございます。斜里町、清里町、大空町の令和5年度および令和6年度の実施ですが、広域での開催以外もカウントされておりました。正しい開催回数は、令和5年度はゼロ、令和6年度もゼロでございます。連動しまして、令和5年度の合計数が1回、令和6年度が1回となります。修正をお願いいたします。引き続き圏域で連携を図りながら広域講座の開催に取り組んでまいります。

次に7ページ、「自治体、自治会主催の地域美化活動の実施回数」です。

令和6年度の実施回数は年395回となり、目標を達成しております。

次に8ページ、「汚水汚泥処理施設を維持」です。

汚水汚泥処理施設数については目標値を維持しております。

次に9ページ、「1市4町連携体制確立のための意見交換および合同研修の実施」です。

令和6年度は1市4町の防災研修会を実施いたしました。引き続き関係機関との連携を図

り、防災体制の強化に努めてまいります。

続きまして10ページをお開きください。

「中心市における子育て支援センター登録組数」です。

令和6年度は前年度から微増の11組となりましたが、目標値には届いていない状況です。利用者の増加に向けた周知を実施し、利用促進に努めてまいります。

次に11ページ、「基幹相談支援センターの新規利用人数」です。

令和6年度は98人となり、目標を達成しております。今後も圏域で連携し、新規利用人数の増加に向けて取り組んでまいります。

続きまして12ページをお開きください。

「認知症サポーター養成人数」です。

令和6年度は8,784人で、前年度の8,628人から増加しております。今後ますますの高齢化の進展を見据え、認知症に対する理解を深めるため、引き続き養成人数の増加を図ってまいります。

次に13ページ、「自治体、会議所（商工会）が支援した起業・創業数（累計）」です。

これは令和8年度までの累計数による指標でございます。

令和6年度は71件で、前年度から24件増となりました。働き手を確保するため、引き続き新たな起業の支援や女性の就労機会および高齢者の雇用機会の創出などに取り組んでまいります。

次のページをお開きください。

「シジミ漁獲量」についてです。

令和6年度については346トンで、産卵不振により基準年から減少しております。

15ページの「サケ漁獲量」について、目標値を上回る結果となっております。

シジミ、サケともに継続して目標値を達成できるよう、資源の安定化に係る調査等も実施してまいります。

次のページをお開きください。

16ページ、「新規農業参入者数」です。

この指標は令和8年までの累計数による指標となっております。

令和6年度は9人で、前年度から1名増となりました。目標値達成に向け、新規就農者への支援を継続して実施してまいります。

次に17ページ、「農林漁業の鳥獣被害の減少」です。

この取り組みは、年間被害額の削減目標を定めている各自治体の鳥獣被害防止計画に基づいているため、協働ビジョンにおける目標値は定めておりません。鳥獣被害防止計画に基づく削減目標については、現状未達成となっておりますので、引き続き対策を実施し、農業被害の減少を図ってまいります。

次のページをお開きください。

18ページ、「GP確認ほ場全ての検出限界以下を目指す」です。

令和6年度の防除により検出限界以下となっていないほ場は56.15haとなりました。

目標値達成に向け、引き続きGPの緊急防除および蔓延防止対策に取り組んでまいります。

次に19ページ、「農業用水の安定確保（畑地かんがい面積の維持）」です。

令和6年度も2万205ヘクタールという結果になっておりますが、供給対象の農地には全て対応できております。

次に20ページをお開きください。

「日常生活圏域内における中心市を介して往来可能なエリア数」です。

これは中心市である網走市を介しまして行き来が可能なエリア数を維持するものであ

り、女満別、美幌、斜里、清里、小清水、東藻琴、常呂の7エリアを維持することを目標としております。エリア数維持のため、地域公共交通機関を維持できるよう、引き続き検討してまいります。

次に、「お試し暮らし体験数」です。

令和6年度のお試し暮らしの体験数は28件で、前年度から若干減少いたしました。目標の年17回を上回っておりますが、継続して達成ができるよう、引き続き様々な施策に取り組んでまいります。

次に22ページをお開きください。

「スポーツ合宿参加人数」です。

令和6年度の実施は1,458人で、前年度から215人増加しました。新型コロナウイルス感染症の影響から回復し、新たな団体が合宿を実施するなど増加傾向にありますので、引き続き誘致活動に努めてまいります。

次に23ページ、「研修会等参加者数」です。

人材育成に関する研修に対し、助成を行った結果、令和6年度の参加者数は183人でした。引き続き人材確保、地元定着の促進を図ってまいります。

次のページをお開きください。

24ページ、「合同研修の実施回数」です。

令和6年度の合同研修の実施回数は1回でございました。この研修には1市2町から20名の職員が参加いたしました。

最後となります。25ページ、「パートナーシップ宣誓制度にかかる担当者会議開催数」です。

令和6年度は制度導入のための内容協議のため1回実施をいたしました。引き続き担当者間で情報共有、協議を行ってまいります。

共生ビジョンに係る成果指標の達成状況については以上でございます。

(吉田座長)

どうも、ご報告ありがとうございました。

改めてですが、本年は令和7年ですけれども、今の報告は令和6年ということで、前年度の実績ということになります。この中で、懇談会ということですが、これはもうすでに確定したことでございますが、先ほどの事務局からのご説明にもありましたように、これからの方策について、これを8年まで進めていくわけですが、それぞれの現場のところでご担当されている中で、今の指標の目標の中でご質問とか、あるいは現状としてこういう課題がもう少しあるのではないかなというような、忌憚のないご意見をいただければと思います。

すぐにというのは難しいかもしれませんが、少し考えてから挙手いただければご発言いただければと思います。

ちょっと時間を置きますので、どんなことでも結構かと思えます。

なかなかご発言、口火を切るのが大変だと思います。

私から、ちょっとこの項目の生活機能の強化に係る具体的取組ということで、先ほど修正がありました、ICTを活用した広域講座開催回数が1件ということだったんですけれども、これ、やっぱりなかなか、前年が6回ということですが、これなかなかちょっと伸びなかったというのは何か課題とかそういうのがあったという感じでしょうか。

(佐々木課長)

数値に修正があり、令和5年度は1回、令和6年度も同様に1回です。広域での講座、参加を呼びかけても集まりにくいというところもあり、網走市では今年度、オンラインでも同時に講座が見れる、聞けるというようなことをやりました。こういったデジタルツールを使うことで、地理的なデメリットも圧縮しながら、なるべく多くの方に広域で様々な講座を受けられるような体制を整備していきたいと考えております。

（吉田座長）

具体的にはこれもICTってということで、パソコンとかスマホとか使ったような形で、自宅から参加できるというイメージですが、この場合、対象ってというのは広く、講座を設定して、それに関心のある方をお願いするってような形か。

（佐々木課長）

色んな方に聞いていただきたいものは、広く参加を呼びかけていきたいと考えております。なかなか周知が思うように届かなということもありますし、「ICTを使って」という条件が付きますと、講座自体も限られるといった現状もありますので、その辺を工夫しながら、今後、広く多くの方にご参加いただけるように考えてまいります。

（吉田座長）

ありがとうございます。いかがでしょうか。何かそれぞれで、分野を超えてでも結構でございます。

（板垣委員）

17ページの鳥獣被害の減少の件なんですが、ちょっとお聞きしたいのですが、これは、実際の計画の数字なのか、それともそれに関わる費用なのか、どういう数字なのかお聞きしたいです。

（佐々木課長）

資料掲載の数字は被害額です。

（板垣委員）

実際に被害額がこれだけあったという解釈でよろしいですか。

（佐々木課長）

そのとおりです。

実は昨年度も、板垣委員からこの点をご意見をいただきました。実際の被害額が、実感としての被害額よりも少ないんじゃないかという内容でした。農業被害額は、それぞれ農業協同組合さんと連携して把握に努めた値でございます。

（板垣委員）

分かりました。その年によってもですね、この被害額というのは変わってくることが多いのと、対策をどれくらいしてるかでも被害額って変わってくると思うんですね。だから実際に被害は減っているけれど、対策にかかるお金が莫大にかかっているということもありますので、なかなかちょっと実被害額だけ見ていくと、実際には、相対的に全て被害の分とそれに対策したお金がどれくらいかかっているかっていうところを相対した部分で見

ると見やすいのかなって気がするんですけどね。

(佐々木課長)

ありがとうございます。より具体的に、イメージしやすい指標、どのような指標の持ち方が良いかも含めて、今後の検討課題とさせていただきます。

(安田委員代理)

今、板垣委員さんが話したページと同じことになるんですけども、多分あの、実際の被害というものは、もっと皆さん多分、数字的にはまだまだ出てる状況なんですよ、正直。ただ、農家さん自体がもう諦めて、その被害額を出してない部分というのはたくさんあると思います。で、うちの町では結構そういう報告の仕方をちゃんと、昔と違ってですね、改定をさせていただいて、ちょっと桁が違うような感じに見えますけれども。でも実際は多分、大きな範囲で被害は減っていない状況だと思うんですよ、どの市町村も。で、やはりこれをどういう風にして各市町村で対策を行っていくかっていうのが大事なんですけども、やっぱりどうしても鳥獣被害は移動しますし、やはりこの今ここにいる、1市4町で、広域的に本当にみんなどういう風にしてこれを対策していくかっていうのをみんな考えていかないと、ただ単町、それぞれでやってもなかなかこう被害額は減らないという状況でありますので、是非ともあの広域的な感じで対策を設けてですね、対策が一枚岩になるのはちょっと難しいんですけども、進めていくようお願いしないと、なかなか実際の数字は減っていかないのかなというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(佐々木課長)

ありがとうございます。なかなか数字に表れない被害、あるいは小さいがために報告をしてないというのも相当あるんだというふうに受け止めました。担当課でも農協へお話を聞いて、数字を吸い上げておりますが、その中にまだ眠ってる数字があるというふうにも受け止めました。どういう分野でどれだけの被害があるのかという実態を正確に掴まない対策も練れないと思いますので、まずはその辺りの精査に努めます。

広域での対策というところはもっともだと思います。鳥獣は広域に移動しますので、市町単独の取り組みだけで解決できるというものではないと捉えております。北海道に対して広域での対策といったようお願いもしておりますが、なかなか実現に至ってないという状況もございますので、引き続き、いただいたご意見を念頭に進めてまいります。

(安田委員代理)

なかなか難しい問題だと思いますけど、粘り強く諦めないでみんなでやらなければこれは解決しないと思いますので、よろしくお願いいたします。

(吉田座長)

ありがとうございます。実際こういう鳥獣被害で、1市4町が集まって協議するという場ってというのは、まだ設けられていないのでしょうか。

(佐々木課長)

全体で集まってという場は無かったと思いますが、担当課同士で個別に連絡し合っとう例はございます。もう少しその規模を拡大するなりしながら取り組んでいく必要がある

だろうと考えてございます。

(吉田座長)

いかがでしょうか、何か。医療福祉の部分のところで、何かございますか。
この報告にこだわらなくても、日頃感じられていることでも結構かと思しますので。

(今城委員)

今回初めてなので、ちょっと中身がよくわからないんですけど、合同で研修をすることか、シジミ漁獲量だとか、そういうのは分かるんですけど、項目が空欄の町が多いのはどういうことなのかなと思いました。それと観光振興のところなんですけど、女満別空港の利用客が増えてるってことで、今後はさらなるインバウンドの増加が見込まれるってことなんですけど、観光振興の推進ということは、その空港だけに来てもらうのではなく、その先、例えば斜里町、清里、小清水、大空町にどのくらいの観光客が行かれるのかっていうところは どう思ってるのか。

(佐々木課長)

観光客の入り込みを測る指標は様々ありますが、指標として空港の利用者数を掲げております。周辺への波及では2次交通、空港到着後にバス、あるいはJRに関しては、釧路の圏域とも一緒に釧網線の賑わい創出や、北見方面では上川エリアと一緒に石北本線の利活用に取り組んでいます。さらに広いエリアでの周遊としては東オホーツクという括りで観光振興に取り組んでいたり、インアウトを別の空港にしてその間の移動自体を楽しんでもらうなど道東の空港間のみでの取り組みもございます。コロナで一旦落ちましたけれども、いま回復基調にあるというところと、インバウンドが少しずつ戻ってきているということもありますので、さらに今後力を入れて観光客の獲得に努めていきたいという状況です。

広域観光は指標を空港の利用者数にしておりますので、ここは網走市が代表して数値を把握しているものです。

(今城委員)

福祉サービスの向上というところなんですけど、こういうところも他の町が記載されていないんですけど、これは来年、再来年になってもここは空欄の場所になるんでしょうか。

(佐々木課長)

例えば、4ページの医療、小児科および産科医療体制の確保では、取り組みは小児科、産科医療機関がある自治体に限られますので、そういったところは空欄になっています。

(今城委員)

他のところにも空欄が結構あると思うんですけど。

(佐々木課長)

各医療、救急医療もそうですが、救急医療機関のあるのが網走と斜里だけですので、他の町は空欄となっています。

(吉田座長)

他の項目でも、例えば防災でしたら網走市はあるのだけれども、他の4町さんが入ってなかったりという、その意味がどういう意味かということですかね。

(明神委員)

中心市におけるっていう記載がある場合は網走市だけになるという整理ですよ。

(今城委員)

中心市におけるっていうのは、センター的な役割ってことで、実際に各4町には子育てを支援するようなものはありますっていう認識でよろしいですか。

(佐々木課長)

はい、そうです。

(今城委員)

今の子育て支援センターの、内容、中身っていうのはどういうことされてるんですか。

(佐々木課長)

申し訳ありません、資料が無く詳細はお答えしにくいのですが、子育てに関して、電話での相談、来所による面談、それから親子での遊び、お子さんと一緒に遊ぶ機会の提供、入幼児から就学時までお子さんと家族が一緒になって参加できるイベントを開催するなど、どのように子育てをしたらよいか悩んでいる方たちに、より良い子育てを講習をしたりですとか、あるいはそういった場を提供したりといったことをやっております。

(今城委員)

その内容でしたら、小清水町もやってると思うんですけど、畔木さんどうでしょうか。

(畔木課長)

小清水町のことでお話しさせていただきます。こちらに載っております、子育て支援センターというくくりの違いなのかなと思うんですけど、正直言いまして、委員がおっしゃられた通り、小清水町にも、斜里町にも、清里町にも子育て支援センターはあります。で、これは広域の事業ということで、それらの機能をさらに統合した、ちょっと差が分からないということなんですけど、1つ上の機能を中心市として網走市の支援センターの方に持たせていただいて、各市町での相談とは別に機能を持たせるという記載になっているのかなという風に思ってます。なので、決して各市町にないというものではないということをご認識いただければと思います。

(吉田座長)

ほかに何かありませんか。

(成田委員)

先ほどお話のあった観光についてですね、空港中心に、空港の入り込み数の数字がそこが上がってるから、それをまとめて網走市で上げてる意味だと思うんだけど、逆に言えば、その周辺の地区のね、入り込み数等について、例えば連泊だとか何かで宿泊だの細かくね、データを出して、で観光についてどう取り組むか、町村でどうなってるかってやれ

ば、多分出席された方はそれを理解するけれども、これだけ見ると他の町村は何をしているんだというような受け止め方をされるのもやむを得ない。そのへんのちょっとデータを出すことも検討された方がいいと思います。そうすると、女満別空港の入り込み数で言えば、大空町は入り込み数が非常に多いんですよ。なんたって大空町の人数入ると、そうするといろんな負担金だとか何かがね、連盟の負担金だとか何かが、結構その入り込み数でカウントされる場合もあったりするものですからね。ですからこれはそういう、特に空港だとかっていうものについての人数把握については、網走市っていうよりは、総論でやって、なんか宿泊数でも人数ね、どうなのかってことが出せば、結構わかりやすいんじゃないかなと思います。

（吉田座長）

今お話のように、目標値としては設定しているけど、さらに補足的にそういうものがあれば、この出たデータについてどう解釈できるかってまた、それぞれの地域にいらっしゃる方が自分のところはどうかっていうことを認識できるっていうこと、そういうのはあった方がいいんじゃないかというふうなご指摘かなというふうに思います。

（二宮委員）

正直申しますと、観光というと確かに宿泊数だとか、いろんな指標っていうのは複雑で、空港の利用者数っていうのも一つだし、それからそれぞれの地域の、宿泊者数とか入り込み客数とか、あるいは入り込み客数も実数で押さえられるのと、実数で押さえられない、例えば定点観測できちっとできるところとできないところがあったりしますんで、なかなか北海道の観光統計なんかでも非常に難しい部分で。北海道の観光統計なんかは、観光パラメーターっていうので、全道で何カ所か、何十カ所か定点観測して、そこを一つの指標にして、一定程度は推計値となっている。あとは、実数で押さえられる宿泊者数とか、そうしたものを勘案して入り込み客数とか、宿泊人数とか、これは実数で押さえられるので、そういったことを組み合わせてやっています。今、あの観光庁なんかで言ってるのは、数よりも質だって言ってるんで、もっともっと踏み込んで言うと、そのいくら人数来たって、きちっとお金を使ってもらわなきゃ意味がないですねというような切り口もありましてね。じゃあ観光消費額っていうのはどうだってことになって、これもなかなかその実数としては押さえづらい、押さえられない、押さえきれないってのがあって、これもやっぱり一定程度、いわゆる対面調査なんかをして、北海道なんかで言うと観光パラメーター調査なんかのその定点のところに行って、対面で聞き取りをして、一定の推計値をして、このぐらいお客さんは使ってるんだらうっていう、そんな推計値も含めてやっていますんで、なかなか一括りにっていうのは難しいところはあると思います。それからもう一方は、観光の側面と言うと必ずしもポイントでお客様って来るわけじゃなくって、よく言われる地域周遊観光とか広域周遊観光って言われるんですけど、やっぱりある面として、観光のお客様ってのは来訪されるってことありますから。そうすると、場合によっては、例えば、大空町でカウント、それから網走来てカウント、斜里行ってカウントとかって言って、一人のお客様でこう何回もカウントされるとかですね、そういったものをどう指標として押さえるのかっていうのは難しいし、一つやっぱり指標として押さえなきゃいけないってのはあるので、今北海道なんかでは、先ほど申し上げたように、実数で押さえられるのと押さえられないのをちょっと切り分けて、統計数字を出してると、いうこともございます。1地点で押さえられるのと、やっぱりその面として押さえなきゃいけないのもあって、我々としては広くご訪問していただいて、そして1円でも多くお金を使っていたらいいっていう

のがやっぱり大変嬉しいことだし、そのためにも各地域も観光振興に取り組んでるっていうことだと思います。以上です。

(吉田座長)

ありがとうございました。そうするとまあこの東オホーツクの定住自立圏の中での観光も一つのその経済基盤、この地域としても重要な経済基盤になっていて、市町村で押さえるのはなかなか大変でも、この定住圏の中でそういうふうなどのぐらゐの額が落ちてきているかとか測定できるものなんですか。それは難しいものなんですか、現状で。

(二宮委員)

実はそれもですね、それぞれ地域で、多分網走市さんなんかは、何年かおきにですね、観光客の消費動向調査っていうのをやって、実際に対面で、据え置きと対面を合わせて、昨年度実施をされて、その前が平成28年度にやられていたはずですが、結構その調査にもお金もかかりますんで、毎年いつでもできるわけではないんですけど、そういったことが、それぞれの地域で押さえる方法かと。それから、当観光協会では、ウェブのアンケートを使って、観光消費動向調査ってやってるんですね。それは必ずしもそのお客様が平均的に全部切り取られてるのかっていう問題はあるんですけど、どういう目的でやってるかっていうと、ちょっと長くなっちゃいますけど、実際に網走に来る前に、網走でどのぐらゐ、例えば宿泊だとか、食事だとか、体験観光とか、にご予算持っていましたか。実際に使ったお金はいくらでしたかっていう。その乖離がどのぐらゐあるのかっていうのと、なぜそうした乖離ができるのか、それが一定程度明らかになってくればやっぱりプロモーションの方法だとか、あるいはもっとお金を使ってもらえるような手法とか仕組みだとか、そういうこともあの組み立てられるので、そういうことに活用できないかってことで、消費動向調査をやっています。

それでやっていくと、やっぱり来る前の予算と実際に、結果としての支出っていうのは年によってやっぱだゐ差はあるんですけど、乖離あるんですね。それでやっぱりどうしてその乖離が生まれましたかっていうと、目的のものや場所を探せなかったとか、もっといいものがありましたとか、いろんな回答があるんですけど、やっぱり的確にお金を使っていただけ、いわゆる観光商品のいろんなアイテムありますけど、そのアイテムをきちんとタイムリーにお客様にお届けする、それによって例えば食事だとか、あるいはその体験、入場の1つもそうですけど、そうしたものにより促進ができる、あるいは繋がっていくっていうのが、見えています。それから、ここに網走バスさんの明神さんもいらっしゃいますけど、どこバスなんてね、観光の利用も多いんです、多いんですけど、その先で、こういったその消費行動を行ってるかっていうのも、今、網走バスさんと連携をしてですね、北海道観光振興機構さんの応援も借りながら、この冬調査事業をやったりと取り組みを進めています。以上です。

(吉田座長)

ありがとうございます。

今バスの話が、一昨年のこの委員会で、やっぱドライバーさん確保が非常に難しくってというような、今はその網走市から各エリアへのバスはなんとか保ってると思いますけど、このドライバーさんが不足してしまうとこれも維持するのがすごく厳しくなってくる、都会でもバス便減らすっていうことがもう現実で起こったりするんですけど、この辺のところはどうですかね。

(明神委員)

はい、あの、相変わらず運転手不足ですと。ただ運転手不足ですといっても、やはり足りないといけないので、あの20ページの方にですね、今後の取り組みというところで、あらたな交通手段についても研究しながらという記載があります。ここの新たな交通手段というところでちょっと情報提供なんですけど、昨年度網走市さんの方で、自動運転の調査事業っていうのが実施されました。まだあの実証運行というのはやってないんですが、まあ例えば、今後ですね新たな交通手段という面ではその自動運転というのが一つのキーワードになってくるかと思います。で、あとはあの隣の小清水町様の方で、昨年度からですね、公共ライドシェア、これは町民の方が自分のマイカーで町民を運ぶっていうサービスです。要はあのタクシーの代わりになるようなサービスですね。こうしたなり手がいない中で、別の手段で足を確保するという動きが今活発になってますので、こうしたことも、やっていながらですね、地域の足っていうのを維持していきたいなというところで、ちょっとあの情報提供に近いんですが、こういう話がございます。

(吉田座長)

ありがとうございます。あの漁業の方は、いかがでしょうか。今年はサケとか大変なんですけども、まあこう基盤としての何かございますでしょうか。もし何かご発言いただければ。

(佐々木委員)

正直な話、あの先ほどサケの話も出てきたんですが、これについては正直、整備とか取り組んでるというレベルじゃなくなってるのが正直現状で、はっきり言ってもう、回帰率がもう、かなり酷いかなってというのが正直なところですよ。だから、どうやって増やしていくかっていうよりも、どうやって作っていくか、どうやってやっていくかというのはもう自然環境との関係もあるのか、その辺がもう全然わからない状態で、なんせ今現実には今年突きつけられたというのが正直なところですよ。

(吉田座長)

この、長期的に回帰率がもうちょっと減ってきてるっていうような。3年だけの話ではなくて、そこをやっぱり、この東オホーツク圏域ではやっぱり漁業っても非常に地域としての重要な経済基盤になっていて、そこが崩壊してしまうとやっぱり地域も成り立っていかない部分もあるかと思うんですけど、それは長期的にやっぱりそういうのを見ていく必要があるというふうに思いました。

(佐々木委員)

正直な話、やっぱり減ってきてるのは確かに目に見えて少しずつは減ってきてるなというのはあったんですが、今年については、全道で見れば30%とか、前年対比30%で、まずうちの網走ではもう20%という、去年と対比で20%しか来てないっていう。もうこれで網上げて終わっちゃいますんで、正直もういろんな政策とかあるんでしょうけども、ここだけで問題じゃなくて、もう全国的な話になっちゃってるんで。あの放流して、人工孵化して放流してるっていうのも北海道全域でやってるんですけども、それでも結局帰ってこないっていうのが何なのか、それについてははっきり言ってもう、突きつけられた大きな問題だと思ってます。

(吉田座長)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

公募ということで、市民の方の目として何かありますでしょうか。

(目黒委員)

ありがとうございます。資料を見てむしろいろいろ勉強になるなというところが正直なところですが、例えば、取り組む施設自体がないってところは新たにこう施設を作るというそういう動きがあるのかどうかということがちょっと気になりました。これからの方で、例えば網走市にあったとしても、じゃあ小清水町も斜里町の方がわざわざこちらまで子供を抱えてくるのかってということになりませんか。なので、あの各市町村さんでそういう動きが今後あるのかどうかということを知りたいなと思いました。

(佐々木課長)

様々な施設を各市町でフルスペックで持つことは理想ではありますが、なかなかそういう状況にはありません。広く圏域で、生活圏域を同じくする市町で、どこかで持って、みんなですれを使うという考え方も、この定住自立圏での連携の一つでもありますので、それぞれの市町で今後、こういった施設が用意されるかは分かりませんが、例えば網走市の施設を、広く圏域を形成している自治体にお住まいの方にも使っていただく仕組みを広げていくというのは一つの方法だなと考えております。

(目黒委員)

ありがとうございます。今後、少子化と言われてますけど、子育てしやすい環境作りをしないと、なかなかうまく子育てとかもうまくいかないのかなっていう風に思います。若い方たちが定住しやすいような環境作りは大事なのかなという風に思います。

(吉田座長)

ありがとうございました。それでは、皆さんご発言をいただきまして、ありがとうございました。

今日の皆さんのご発言を事務局の方でご検討いただいて、さらにまた目標に向けて頑張っていただきたいと思います。

それでは、続きまして議題4、その他、ということで、何か皆様の方からございますでしょうか。特にはございませんか。

それでは、最後に事務局から連絡がございますでしょうか。

(法師人係長)

はい、連絡事項が1点ございます。

委員の皆様には懇談会ご出席にあたりまして、報酬と交通費を支給させていただいております。報酬等については年度末にお振り込みさせていただく予定でありますので、ご承知おきください。以上でございます。

(吉田座長)

はい、ありがとうございました。それでは、これで第6回東オホーツク定住自立圏共生ビジョン懇談会を終了したいと思います。どうも、本日はありがとうございました。